

日一首中、

〔慶安三年木曾路記〕佐渡川墨股より一里あり、舟渡なり、墨股同前に舟橋かゝるなり、四百餘艘にて掛るなり。

〔游藝園隨筆抄〕四月〇天保十三日、日光山へ御参詣○德川として御發輿なり。○中古河の渡の船橋は高瀬船といへる舟をいくらも並て、其上へ土を敷柴を重ねて、申さば柴橋と馬場とを兼たるもの、如くになし、大竹をもて欄干を設け、いと珍しくまた見べきもの、よし、上にもこゝは輿にて渡るは惜しきとの御意ありて、御往返とも御歩行なりしとのことなり。

〔倭名類聚抄〕道路具梯 郭知玄云梯音低、和名木階所以登高也、唐韻云梯音賤、訓訓音一音板木構險爲道也。

〔伊呂波字類抄〕加地儀梯カケハシ、機

〔八雲御抄〕三上地儀橋

〔藻鹽草橋〕かけ橋 山のかけ橋 谷のかけ橋

〔和漢三才圖會〕三十四音會船橋 橋殘

和名加介波之

棧棚也、閣也、閣木爲棧、漢書所謂棧道、今謂之閣道。

按、棧橋谷深或流急而橋柱不可得立之處、從岸組出行術、不用堅柱也。

〔倭訓栞〕前編六かけはし 日本紀に檻をよめり、懸階の義、即棧道也。

〔飛州志〕一
土地橋梁之製

本土ノ橋梁ハ溪澗ノ急流ニアリ、故ニ激水ヲ爲ニ破ラル、ワヅラオアルニヨリ、橋杭ヲ用ルコト稀也、多ク棧道ニ造レリ、凡テハシノ號アルモノヲ載其作用ヲ記ス、